

『一心一体』

インターネットは、
心と心の隙間を補うツール。

息を吸う人。
息を吐く人。

呼吸の中にネットあり。

PJ PED BITS



佐谷宣昭 Nobuaki Satani

1972年生まれ。九州大学工学部建築学科卒業。2000年九州大学大学院人間環境学研究科博士課程修了、博士（人間環境）。翌月起業。株式会社パイプドビッツ社長CEO。明日の豊かな情報生活に貢献したいとの想いから、「情報資産の銀行」の必要性を説く。官公庁や都市銀行、小売業など10,096の事業者に情報資産プラットフォーム「スマートバンク(R)」を提供中。

株式会社パイプドビッツ
東京都港区赤坂2丁目9番11号
03-5575-6601(代表) http://www.pi-pe.co.jp/

「糸巻き」 フレデリック・レighton

10月31日、黒田バズーカ砲が炸裂した。黒田総裁率いる日銀が追加金融緩和策を決定すると、ドル円相場は一気に2円ほど円安になり、日経平均株価は前日比755円高へと急騰した。ご承知のとおり、今回のバズーカ砲は2発目だ。1発目は昨年の4月4日に炸裂している。長期国債や上場投資信託などの年間買入額を倍増する大胆な金融緩和策を発表した結果、ドル円相場は2円程度の円安に振れ、日経平均株価は200円安水準から一気に272円高まで急騰した。今回のバズーカ砲では、上場投資信託と上場不動産投資信託の買入額をさらに3倍に増やすとのことで、一段と大胆な金融緩和策となっている。

今回のバズーカ砲が炸裂した前日、米国ではQE3と呼ばれる金融緩和策の終了が発表されていた。F R Bが2年間継続してきた住宅ローン担保証券と米国債の買入を終了するとのことで、日銀の政策とまるで逆の展開となつた。逆のバズーカ砲が炸裂したかと思いつきや、NYダウ平均は若干の下落にとどまり、平然としていた。では、今回の日銀の発表が「バズーカ砲」と呼ばれるほどに市場に大きな衝撃を与えた要因は何だったのか。もちろん政策の内容は十分に大胆なわけだが、内容であれば米国の発表も逆の意味で大胆だったはずだ。ところが、日銀の発表には驚きがあり、F O M Cの発表には驚きがなかった。

日銀の決定は殆どの人が予想していなかつた。現に、今回の追加緩和策を決定した会合では、9人いる政策委員のうち4人が反対していた。市場では従前の金融政策を維持するとの見

方が強かった。

一方で、今回のF O M Cの決定については、その見通しが昨年すでに発表されていた。昨年の5月22日、F R Bのバーナン基調議長は、それまで明らかにしてこなかったQE3の縮小を示唆した。そのときは世界の金融市场に激震が走った。いわゆるバーナンキショックだ。世界中が動搖し、日本の株式市場も大混乱した。混乱が落ち着き始めた翌月に、F O M CはQE3を段階的に縮小しながら終了する見通しを発表した。このフォワードガイダンスによって、市場は次第にQE3終了までの展開を織り込み、今回の発表の驚きは失われた。こうして大きな混乱なく金融緩和策を終了することに成功した。

予見可能性のコントロール。企業経営にも活かせる教訓だ。ネガティブな政策転換は、フォワードガイダンス、つまり出来るだけ前広に周知徹底を図り、着々と実施していく。予見可能性を高め、不安を和らげる。黒田総裁はその逆をやつた。ポジティブな政策転換は突如発表すれば効果的であることを証明した。彼女がいることを隠したまま結婚を発表すると周囲が大いに驚くのに似ている。

『バズーカ砲とフォワードガイダンス』